

表2 帝王切開術適応の内訳

(平成7年1月～12月)

| | |
|-------------|----|
| 帝王切開の既往 | 22 |
| 産道因子 | 22 |
| 胎児仮死またはその疑い | 18 |
| 分娩停止 遷延分娩 | 12 |
| 骨盤位 | 10 |
| 胎盤早期剥離 | 2 |
| 前置胎盤 | 1 |
| 母体合併症 | 2 |
| 計 | 89 |

※ 適応が複数の症例は主たる理由と思われる項目に分類した

切開や流産の処置が多くを占めています。患者数に比較しても、地域の婦人科の中心的病院としての機能を十分に果たしているとは言えません。特に悪性疾患の患者さんは、病名を告げると札幌や旭川の病院での治療を希望する場合が多く、この病院で十分な治療を受けられることを広く理解してもらうには、多くの努力と時間が必要な事を痛感させられます。

入院患者に対する診療、看護の質向上のために、専門分野に限った抄読会ではなく、産婦人科の各

症例を理解するうえで必要な病態生理、薬の作用副作用といった基礎的な勉強会を開きたいと常々考えておりますが、なにせ忙しい病棟なので、定例のHRP（ハイリスク妊娠）カンファレンスも、なかなか人数が揃わずにいます。春からは幾らかスタッフも充足しそうなので、是非とも実現したい課題です。

表3 産婦人科 手術内訳

(平成7年1月～12月)

| | |
|----------------------|-----|
| 帝王切開術 | 89 |
| 子宮全摘術 | 50 |
| 卵巣腫瘍（良性） | 17 |
| 卵巣腫瘍（悪性） | 2 |
| 筋腫核手術 | 3 |
| 子宮脱手術 | 2 |
| 試験開腹術 （悪性腫瘍を含む） | 4 |
| 子宮外妊娠手術 | 7 |
| 頸管縫縮術 | 5 |
| 円錐切除術 | 4 |
| 胞状奇胎除去術 | 1 |
| 子宮内容除去術 （試験搔爬を含む） | 50 |
| 外陰、膣手術その他 | 6 |
| 計 | 240 |

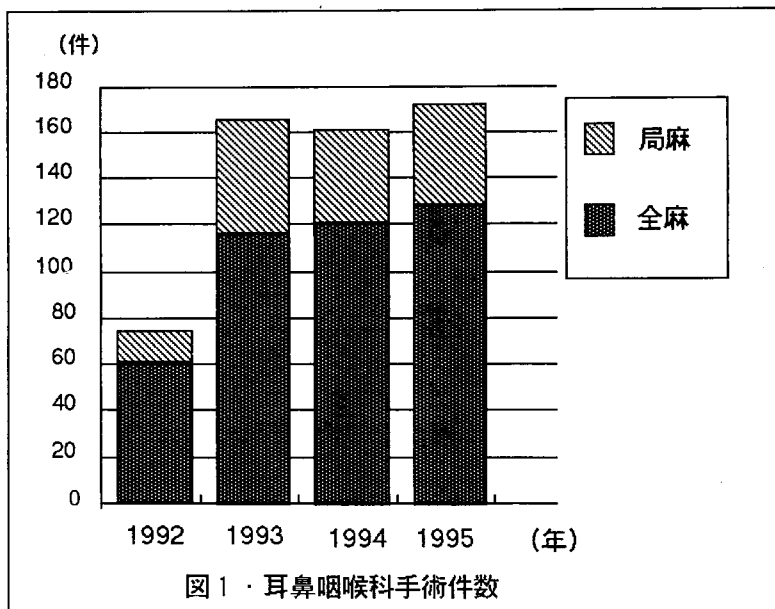
耳鼻咽喉科の1995年

耳鼻咽喉科医長 東 松 琢 郎

長い間非常勤医師の出張で外来診療のみが行われていた耳鼻咽喉科も1992年4月からは常勤体制となりました。初代の安達俊秀医師は3年間孤軍奮闘して耳鼻咽喉科の基礎を築きましたが、95年3月に旭川医科大学に転じ、4月から東松琢郎が2代目医長として同大学より赴任しました。さらに耳鼻科も待望の2人体制に増員していただき、6月1日付で松井玲子医師が着任しました。かわりに定期的な大学からの応援出張は打ち切り、現在は原則的に常勤医2名で外来・手術をおこなっています。しかし耳鼻咽喉科を非常勤の時代から15年余にわたり支えてきた外来看護婦の今さんが

転出したことは、重要な時期だけにきわめて残念なことでした。

1995年1月から12月までの手術室での総件数は172件で、うち全麻128件、局麻44件でした（図1）。2人体制にはなりましたが、手術日やベッド数は増えていないため残念ながら件数としてはほぼ限界かと思われます。このため小手術は外来やベッドサイドで行い、比較的大きな手術や全麻手術を優先して対応しています。主な手術症例では、鼓室（膜）形成術6例、甲状腺手術は24例（甲状腺腫瘍20例、パセドウ手術4例）のうち頸部郭清術を併行した甲状腺癌が3例、その他



に喉頭全摘術、上皮小体腫瘍、鼻腔腫瘍、両側膿胸にまで至った重篤な深頸部膿瘍などがありました。こうした症例は院内や道北各地からの紹介が多く、特に深頸部膿瘍症例は地元病院との適切迅速な連携と、第2外科の全面的ご協力のおかげで良い結果となり、センター病院として地域病院との連携の重要性を再認識しました。

現在の悩みはカバーしている地域の広さと病院の規模から考えるとベッドが著しく不足していることです。入院患者の半数以上を占める道北各地からの多くの患者さんに対応するため増床を切望しているところです。

外来患者数は開設以来常に前年度を上回って漸

増傾向にあります。2診体制で頑張っていますが、いつも患者さんに長い待ち時間を強いることになってしまい申し訳なく思っております。また4月から耳鼻咽喉科も院外処方となりました。院外薬局の皆様の御努力御協力もあって順調に移行できたと思っています。

最後になりましたが、6月から吉田病院、市立士別病院のスタッフの先生方とともに勉強会を発足しました。少人数ですが、当院の会議室を会場に月1回抄読会を行っています。同じ地域の耳鼻咽喉科医療に携わる者として、連携を深めつつ研鑽を積み、地域に貢献していきたいと願っております。

